



# 2024 2025 CSRレポート



MUKAI

# 未来のために 私たちができること



## トップメッセージ

### ■新体制で掲げるムカイグループの使命と価値観

昨年、向井建設は第76期を迎え、前社長・遠藤和彦氏から大神新社長へと経営のバトンが引き継がれました。新体制のもと、「多様な課題に挑戦する総合躯体建設会社として、未来社会の発展に責任を果たす」ことを掲げた〈中期経営ビジョン75-77〉を策定し、力強いスタートを切りました。さらにムカイグループ理念として、3つの構成要素を明確にしております。まず、**PURPOSE**（社会的存在意義）として、「ステークホルダーに安全・安心、そして利便性と快適性に富んだ施設やシステムを提供していくこと」を



ムカイホールディングス株式会社  
代表取締役社長 向井 敏雄

### SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



グループ共通の目標に掲げました。いかなる困難に直面しても、主体的にたち向かい、社会やお客様から搖るぎない信頼関係を築いていく—それが私たちの使命です。そして、その実現のための**CORE VALUES**（グループ共通の価値観）として、「MUKAISM 5ヵ条」を指針に掲げ、現場の最前線で働く一人ひとりに至るまで、この行動規範を実践することが求められています。

「向井が変われば現場が変わる」を信念に、現場の隅々まで理念を浸透させ、粘り強く実践を重ねることで、ムカイグループ各社の持続的な発展を実現し、社会への貢献を果たしてまいります。

MUKAI



私たち  
未来社会の発展に貢献していきます



ムカイホールディングス株式会社

人と、社会と、未来の創生

■ P.2~3



向井建設株式会社

日本を創る力でありたい

■ P.4~15



**TOM**  
株式会社TOM

すべてのお客様へ  
安心と満足を

■ P.16~19



株式会社 稲田組

「誠実・和」を心に  
人と社会と未来をつくる

■ P.20~21

# ムカイグループ理念

ムカイグループでは、これまで掲げてきた  
「MUKAISM5カ条」(コアバリュー)と「たち向かう」(ブランドメッセージ)に加え、  
新たに、「パーパス」(社会的存在意義)を明確にしました。



この3つの指針を掲げ、事業や法人の枠を超えて、グループ全体が一丸となり、良い方向を目指すべく「ムカイグループ理念」として定めました。ムカイグループの永続的な発展のため、全従業員に共有し、浸透を図ってまいります。

(2025年10月1日時点)

# 人と社会と、未来の創生

10 人や国の不平等をなくそう

17 パートナーシップで目標を達成しよう



ムカイホールディングス

## ムカイホールディングス株式会社

### ■会社概要

代表者 代表取締役社長 向井 敏雄

東京本社 東京都千代田区神田須田町2-8-1

設立 1976年4月1日

資本金 10,000,000円

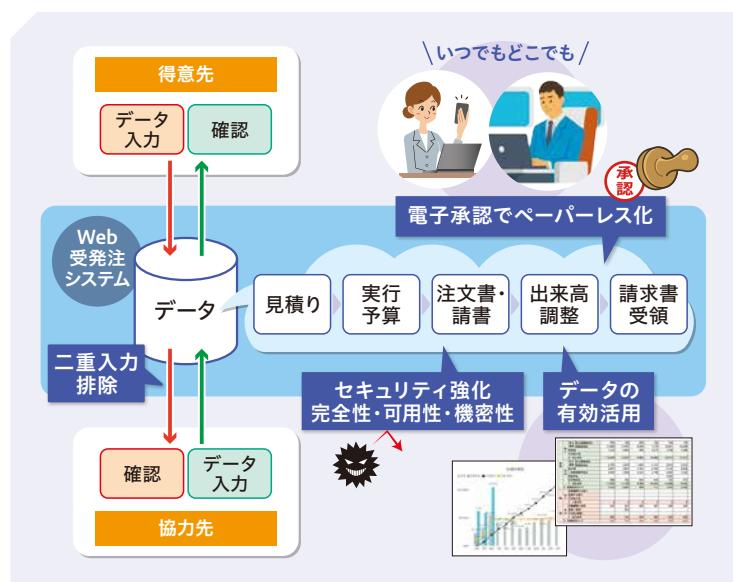
事業内容 持株会社、グループ会社の経営管理  
および、これに付帯する業務、不動産業

### ■新基幹システム(NCS)本格導入

当社が進める新基幹システム(NCS)の導入プロジェクトが本格的にスタートしています。すでに、当社への導入は調整期間に入り、現在は、向井建設・TOMでの導入を行っている最中です。まだまだ改善が必要な部分は残っていますが、必ず成功するように尽力し、業務改善及び、得意先との連携に大いに活用できるシステムにしていきたいと思います。

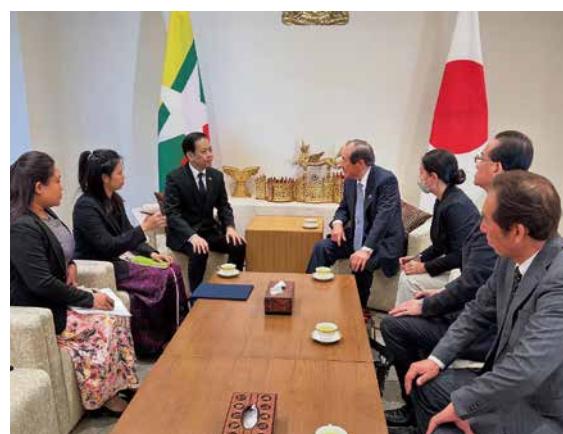
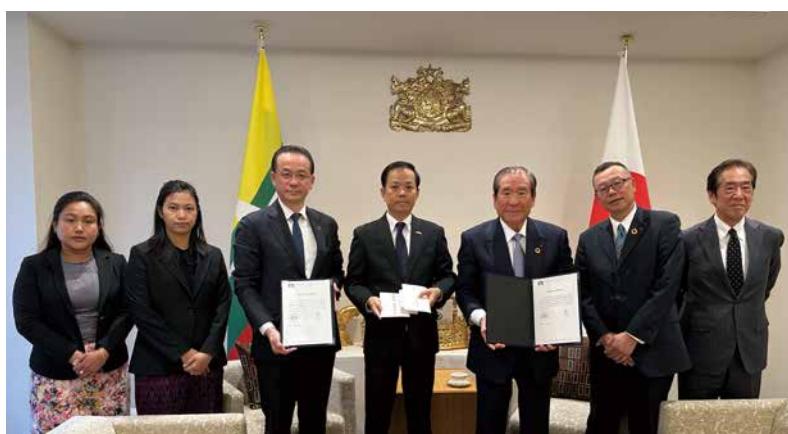
#### 効果

- 手作業で二重入力が無くなり、人為的ミスの削減
- 承認フローの電子化による効率化
- セキュリティ強化
- 郵送費や、印刷代などの経費の削減



### ■ミャンマー中部地震の被害に対する義援金

3月28日ミャンマー中部を震源としたミャンマー大地震が発生し、甚大な被害をもたらしました。ムカイグループでは、ミャンマー実習生を受け入れており、少しでも彼らの国の方になりたいと思い、義援金をミャンマー大使館へお届けいたしました。被災された方々に謹んでお見舞いを申し上げますとともに、被災地の一日も早い復旧、復興をお祈り申し上げます。



向井建設  
TOM

稻田組

## 向井建設株式会社



### 会社概要

代表者	代表取締役会長 遠藤 和彦 代表取締役社長 大神 光司
東京本社	東京都千代田区神田須田町2-8-1
東北支店	宮城県仙台市青葉区一番町2-5-17
営業所	横浜・東関東・北関東・名古屋・いわき 青森・秋田・岩手・山形・宮城・福島

創業	1908年8月1日
設立	1951年1月25日
資本金	100,000,000円
事業内容	建築一式工事・土木一式工事・とび土工 コンクリート工事・型枠工事・鉄筋工事 解体工事・産業廃棄物処理業、他

### 社長メッセージ



代表取締役社長 大神 光司 (勤続25年)

#### CSRレポートに込めた想い

当社のCSRレポートは、企業としての社会的責任を果たすための重要な指針であり、未来への搖るぎない約束を示すものです。このレポートには、私たちが掲げる理念や方針だけでなく、実際に現場で取り組んでいる具体的な活動の数々も記載されており、当社の姿勢と行動を明確に示す内容となっています。これにより、私たちは地域社会の一員としての使命を改めて認識し、持続可能な成長と透明性ある経営の実現について、お客様、従業員、そしてすべてのステークホルダーの皆さんにお伝えしたいと考えています。当社は中期経営ビジョンを「自らの『成長』を希求し、『誇り』を抱き、多様な課題に挑戦する総合躯体建設会社として、未来社会の発展に責任を果たす」と定めました。このビジョンの実現において、根幹にあるのは「人」の力です。与えられた環境に感謝し、日々、技術・技能の研鑽に励み、MUKAISM5カ条の実践を通じて人間力を鍛磨し、自身で成し遂げた成果に「誇り」を持つ。その誇りが更なる組織への貢献意欲につながるという好循環を築き上げたいと考えています。

そして、私たちの重要な使命である社会や地域の課題に真摯に向き合い、その解決に貢献してまいります。地震に強く快適に暮らせる空間や街づくり、豪雨災害による被害を防ぐ構造物の建設、安全で安心な生活を届ける電力供給施設から交通・物流を支える道路に至るインフラ整備を通じて、人々の豊かな生活を支える責任を果たします。私たちは、これからもすべてのステークホルダーとともに価値を創造し、より良い未来を築いていく所存です。また、次世代を担う若者たちとの対話を大切にし、その声に耳を傾けながら持続可能な社会に向けて歩み続けます。CSRへの取り組みは、私たちが生きるこの地球が存続する限り、決して終わることのない挑戦です。このレポートが、皆さまとの建設的な対話の第一歩となり、当社が描く未来とともに共有する機会となれば幸いです。私たちの歩みが、地域と社会の発展、そして持続可能な社会への確かな一歩となることを、心より願っております。



入社式



現場パトロール



若手人材技能研鑽塾



### ■ 躯体管理課が設立された理由とその未来

建築工務部 躯体管理課  
課長 恩田 智晃（勤続20年）千葉工業大学 卒

2023年に新設された「躯体管理課」は、設立から3年目を迎え、いよいよ本格的な進化への節目を迎えています。当社建築部門はこれまで、とび・コンクリート・重機土工といった専門工事を中心に事業を展開してきました。しかし今、建設業界は人手不足や技能者減少、そして発注者ニーズの高度化という大きな転換期にあります。従来の枠組みのままでは、事業の持続と成長を実現することはできません。現場数が減少し、一人ひとりの生産性向上が急務となる中、当社は“変わる覚悟”をもって、型枠・鉄筋を含む躯体工事を一括して管理・施工できる体制づくりに挑戦しています。現在は、その未来の基盤を固める重要な段階にあります。

第一に、現場全体を統括しプロジェクトの中核を担う「躯体管理者」の育成。

第二に、現場を支え、安定した品質と生産性を確保する支援・補完体制の構築。

第三に、実際の施工力を磨き上げる「躯体施工部隊」の育成。

これら三つのステップを確実に積み上げ、組織と業務全体の再構築を進めています。この仕組みが機能し、成果を生む段階へと成長したとき、当社は自社独自の「生産システム」を確立し、専門技術を最大限に活かした総合的な躯体建設を担う企業へと進化します。変革を恐れず、次の時代のスタンダードを自らつくり出す企業であり続けるため、これからも果敢に挑戦し続けます。



### ■ 躯体管理者の育成と業務支援

次世代を担う若手社員を対象に「躯体管理育成塾」を開講し、躯体工事の基礎知識から施工準備、管理、検査に至るまで体系的に学べる環境を整えています。講義資料はポータルサイト「施工フロー」に公開し、携帯端末からいつでも確認可能とすることで、実務に即した学びを支援しています。



躯体管理育成塾による管理者育成



「施工フロー」の現場活用



マネジメントサイトによる業務支援



また、躯体管理者と全体管理者の情報共有を深める「マネジメントサイト」も運用しています。進捗や課題を可視化し迅速な相談や報告を促すことで、リスクや期日管理を強化。業務支援の一環として、互いに支え合う関係を築き、現場と管理者をつなぐ仕組み創りを進めています。

### ■ 間(はざま)作業を埋める複合施工チームの構築を目指して

躯体工事では、工種の“間”に発生する作業への対応に苦慮し、元請職員が対応せざるを得ない場面も見受けられます。こうした課題に対し、当社では間(はざま)作業を含め一括施工できる「躯体施工部隊」の構築を進めています。主軸職種に加え、他工種にも対応可能な「単能複合工」を取り入れ、現場全体の対応力を高めています。さらに施工部隊をチーム化することで作業負荷を平準化し、新規入場者の出入りを抑えて災害リスクを低減。固定チームにより“自分の現場”という意識が芽生え、品質意識の向上にもつながります。もちろん、こうした体制は当社の直轄部隊だけでは限界があるため、協力会社とも連携しながら課題解決を図っていきます。

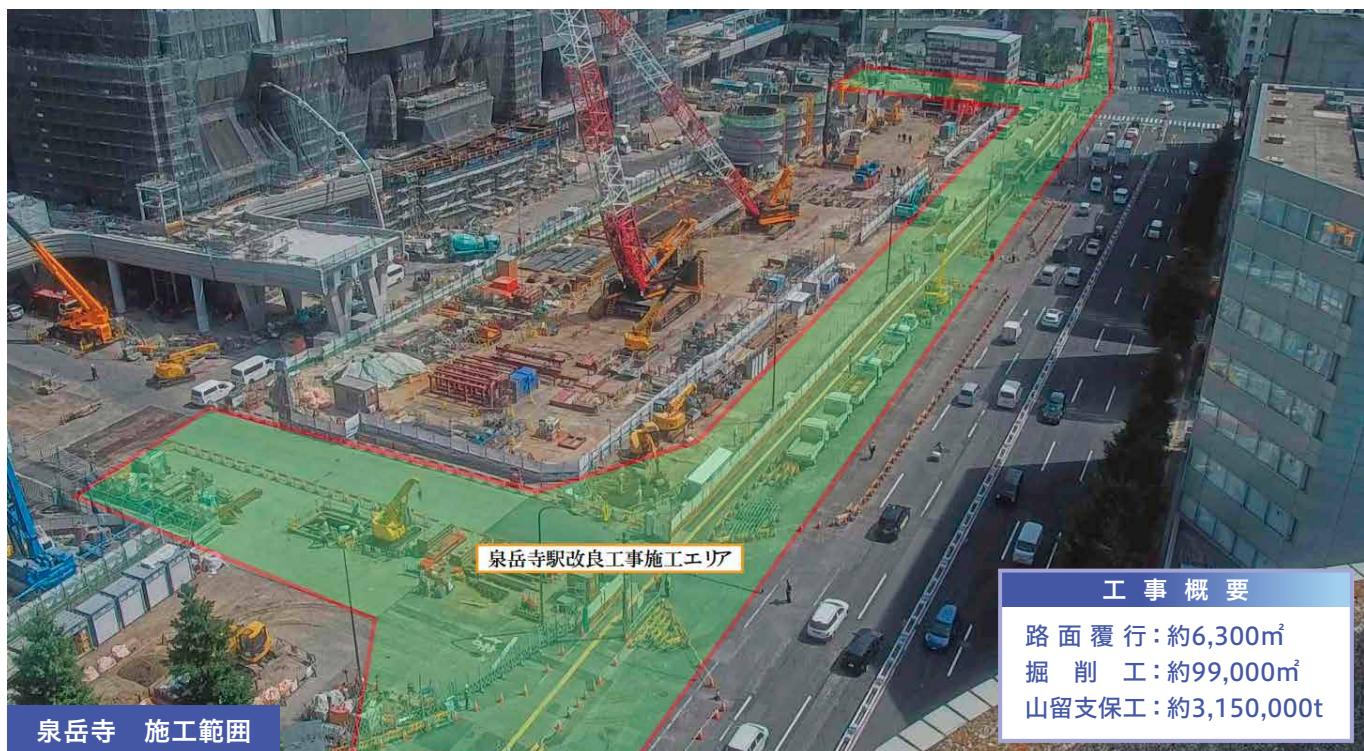


躯体施工部隊打合せ

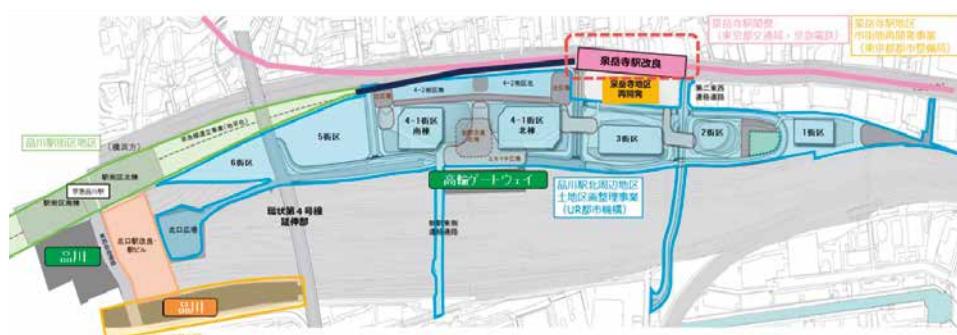
# 快適な未来社会のために

## ■ 泉岳寺駅改良(駅工区)土木工事

品川駅周辺地域は、羽田空港に近く、また、リニア中央新幹線の開業が予定されており、今後さらなる発展が見込まれます。これに伴い、泉岳寺駅の利用者はますます増加すると考えられます。



本事業は、ますます増加する利用者に対応するため、泉岳寺駅のホーム拡幅及びコンコース拡張や、昇降施設、出入口などの機能強化を行い、駅の利便性、安全性の向上やバリアフリー化の充実を図るもので、直轄施工部重架設グループの吉田社員は、鹿島・東急・京急JVで施工中の泉岳寺駅の地下躯体を拡幅し、ホーム及びコンコースを増設・増強する現場で活躍しています。



土木統括部 土木直轄施工部 直轄施工一課 重架設グループ  
吉田 諭真 (勤続7年) 佐賀県立高志館高校 卒

入社当時は自分自身の仕事を覚えることが大変でしたが、今ではその覚えたことや作業の段取りを、協力会社、技能実習生にいかに分かりやすく伝えることができるかに苦労しています。その苦労の甲斐もあってか、上司、先輩に少しずつ仕事をさせていただけるようになりました。この調子で今後も仕事の幅を広げていきたいです。泉岳寺駅改良のような規模の大きい現場に携われていることを誇りに、日々業務に取り組んでいます。





## ■ 東京外かく環状道路中央ジャンクション南工事

都心から約16kmの圏域を環状に連絡する東京外かく環状道路は、首都圏の渋滞緩和、環境改善や円滑な交通ネットワークを実現する上で重要な道路です。

### 平面図

#### 当現場



出典元: 東京外かく環状道路(関越~東名)令和7年8月 大泉JCT付近及びシールドトンネル工事の状況等をお知らせするオープンハウスの資料

### 工事概要

施工場所: 東京都調布市緑が丘~三鷹市北野地先  
工 期: 平成28年10月4日~令和11年5月3日(予定)

現在、関越道~東名道間をつなげるための事業が行われていて、直轄施工部型枠グループの廣瀬社員は、西松建設株式会社で施工中の中央道と交差する中央JCTのランプ部及び換気所地下躯体を構築する現場で活躍しています。



出典元: 東京外かく環状道路(関越~東名)令和7年8月 大泉JCT付近及びシールドトンネル工事の状況等をお知らせするオープンハウスの資料

土木統括部 土木直轄施工部 直轄施工二課 型枠施工グループ  
廣瀬 由輝 (勤続4年) 東京都立葛西工業高校 卒

型枠は綺麗なコンクリートを作るのに欠かせない作業です。同じ型枠の組み方でも様々な方法があり、覚えることが多く大変でしたが、細かい部分の型枠の加工や組立が上手くいったときは、心地よい達成感が得られます。自分達の仕事は、未来のために、今後何十年、地震などに耐えられる品質の良い躯体を作ることであり、その建物が地図に残っていくことは、この仕事の誇れる部分です。当現場のような巨大な構造物の施工に携われること、その中で自らの技術・技能を研鑽できることを嬉しく思っています。



# 想いを形に、あたたかな学びの場を



## ■ 佐沼高等学校 新校舎等改築工事

明治35年の創立以来、県北地域の中核として多くの人材を育んできた宮城県佐沼高等学校。その校舎改築工事に携われたことを誇りに思います。同校の「人格の形成と学問の探究を校風とし、文武両道の精神のもと豊かな人間性と創造性を育む」という教育方針に深く共感し、生徒の皆さまが安心して学び、成長できる環境づくりを目指し伝統ある学び舎にふさわしい施設を実現するため、安全と品質を最優先に、元請および関係各社と協力しながら施工に取り組みました。



### 工事概要

建物用途:高校

建築面積:4,070.80m<sup>2</sup>

延床面積:7,658.53m<sup>2</sup>

構造種別:【普通教室棟】RC造、一部S・SRC造

【東棟】RC造、一部S造



東北支店 建築統括部 建築工事部

宮城営業所 ムカイスチール

主任 山崎 穂 (勤続19年) 東北学院榴ヶ岡高校 卒

2024年7月から約1年間、「佐沼高等学校 新校舎等改築工事」にて、外構工事を含む鉄筋工事を担当させていただきました。今回の現場では、普通教室棟がSRC造・RC造、東棟が円形のS造と、複数の構造が混在しており、特に構造の取り合い部では精度と品質の確保に苦労しました。現場では何度も検討を重ね、細部まで確認を行うことで、安定した品質を確保することができたと思います。また、敷地内には既存の学校施設や記念樹があり、資材搬入ルートやクレーン設置位置が限られるなど、作業環境にも多くの制約がありました。さらに、他業種との工程調整も難航しましたが、元請職員や協力会社の皆さまと連携し、チーム一丸となって一つひとつ課題を乗り越えていきました。その結果、無事故・無災害で工事を終えることができ、工事に関わることができたことを誇りに思います。今後もこの経験を生かし、より良いものづくりと信頼される現場づくりを目指して努力していきます。

東北支店 建築統括部 建築工事部

宮城営業所 热海康太朗班

職長 鈴木 博 (勤続34年) 東北電子専門学校 卒

この工事は宮城県の県北地域の教育の中核となる「佐沼高等学校 新校舎等改築工事」となります。私がイメージする高校生時代の校舎はRC造で長方形、色はグレーで冷たいイメージでしたが、今回携わった工事では円柱形の建物や、R型の渡り廊下、環境負荷の軽減を配慮したポーラスコンクリート、内外装には木を多用したデザインが施され、とても温かみのある建物になりました。施工面においては構造がSRC造、S造の組み合わせで支保工足場などの仮設工事に苦労しました。元請職員はじめ、関係協力会社と連携し最後まで無事故無災害で完了することができました。今後も自己研鑽に励みつつ、若手の人材育成、技術・技能の継承を意識し指導にあたり仲間とともにチーム一丸となって、建設業の発展に貢献いたします。



# 歴史的遺産を未来へつなぐ



## ■ 仙台城跡石垣復旧工事

令和3年2月および令和4年3月の地震で被災した仙台城跡石垣復旧工事の現場において本丸北西・西門（とりのもん）の石垣復旧に携わりました。後世に継承すべき歴史的遺産であることから非常に難易度も高く、今まで実績のない工事でした。そのため手探りで施工を進めるなか、現場においては高い技術力を発揮し安全・品質・生産性向上に貢献し元請から高い評価をいただき、11月に所長賞を受賞しました。



### 工事概要

本工事は、令和3年2月および令和4年3月発生の地震により崩壊した石（約775個）を含む約5,800個の石を一度解体して積み直しました。



東北支店 土木部  
土木工事部 工事一課  
主任 佐藤 大志（勤続24年）青森県立藤崎園芸高校 卒

この現場は、災害により被災した石垣復旧工事であり石垣撤去、番付からの石積み工事と、今まで経験したことのない難易度の高い現場でした。特殊工事なので石工との打ち合わせを日々行い、安全性や施工性を考慮した施工を心がけ、昔ながらの石積みの在来工法にジオテキスタイル\*など新しい工法をプラスしてハイブリッドな工法に挑戦し無事に完成することができました。協力会社の方々の協力もあり無事故での竣工を迎えることができました。

\*ジオテキスタイル:主に地盤の補強、排水、分離、フィルター機能などを目的に使われる浸水性のある繊維製シートで、盛土や擁壁などに利用します。

株式会社景観システム  
職長 江川 佑斗

この現場では、今まで我々の石積みの在来工法とは違い、未経験であった新しい工法も追加され最初は戸惑いました。しかし、打ち合わせを重ねていき不明な点を解消していきながら、無事に施工を完了することができました。今回仙台城跡の石垣を担当させていただけたことを大変ありがとうございます。誇りに感じています。今回経験できたことを若手の教育・指導に生かし、後世に残していくこうと思います。





# 持続可能な未来のために、機械化による更新

## ■ ICT建機を用いて、現場の作業効率化・人員削減に貢献

ICT建機とは、Information and Communication Technology(情報通信技術)の略称であり、主にGNSS(衛星測位システム)やセンサーを用いて位置情報を計測し、3D設計データと連携することで、バケットや排土板の自動制御(MC:マシンコントロール)や操作補助(MG:マシンガイダンス)を行える建機の総称をICT建機と呼びます。

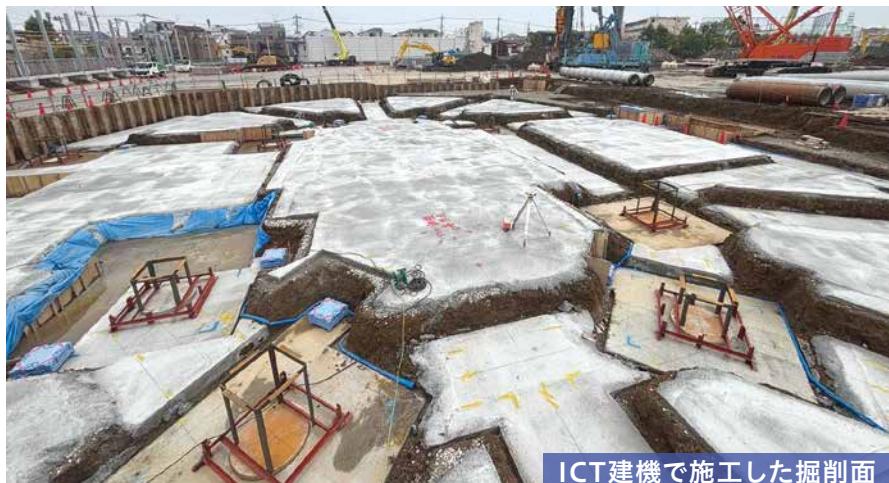
### マシンコントロールが使われている身近なもの

- エアコンや冷蔵庫のように温度を一定に保つ家電
- 洗濯機や食洗機
- 自動販売機、自動改札機



### マシンガイダンスが使われている身近なもの

- カーナビ、Googleマップ



### メリット・デメリット

#### メリット

- 機械が自動で高さや角度を調整するため、高い精度で効率的な作業が可能
- 経験の浅いオペレーターでも高精度な作業が可能なため、人手不足の解消に貢献できる
- 過掘防止などによる品質の均一化
- 墨出し作業や仕上がり確認の作業を省略できるため、現場作業の手戻りが減少し、全体の工期が短縮される
- 高精度な施工が安定して実現できる

#### デメリット

- 導入費用が高額である(専用機や後付システムなど)
- メンテナンスやトラブル時の対応に専門知識が必要
- GNSS(衛星測位システム)やTS(測量機器)の信号が届かない場所では機能が制限される(通信状況に左右される)
- 3D設計が必須となるため、事前準備が必要
- ICT部品が精密機器であるため、従来の重機に比べて故障が多い傾向にある

機材部 重機土工課

上級職長 谷津 祐史 (勤続34年) 東京都立世田谷工業高校 卒

乗り始めた当初、ICT建機(以下、ICTと称す。)でなくとも今まで培ってきた経験と技術で現場はこなせると思っていた。またモニターを見ながら掘削するのは、脇見運転で危険ではないかと思いましたし、ICTの画面操作など新しい技術を覚えるのが少し面倒でした。しかし、いざ使ってみると掘削前の墨出し作業がほぼ必要なくなり、レベル管理はたまに確認する程度でよく、碎石敷きのような細かな作業も容易にできてオペレーターへの負担もそうですが、土工さんの人員や負担も大きく削減できたと思います。私はICTに対して否定的でしたが、慣れてきたらなくてはならない相棒になっていました。様々な機能も便利ですが、今まで土工さんがレベル管理などで常に重機の作業半径内にいたのが、たまに確認する程度となり重機と作業員が接触する可能性が減少し、オペレーター側もリスクが減り精神的にも余裕ができました。豊富な経験と熟練した技プラスICTで素晴らしい品質と安全な施工ができると思います。昨今は人手不足と高齢化で人員を確保するのも大変なので、現場の環境的に使用可能であれば率先して使用したいと思います。



# 働き方改革から働きがい改革へ

■ 秋葉・赤羽・池田の3名が、建設業界における働き方の変化や、未来への展望について語り合いました。



## 「建設業界の働き方はどう変わった？」

秋葉:建設業界って、昔は長時間労働が当たり前でしたよね？  
赤羽さんの頃はどんな感じでした？

赤羽:そうですね。「1日は24時間ある」って言葉をよく聞きました。終電間際まで働くことも多かったし、有給も取りづらい環境でしたね。

池田:私が入社した頃はそこまでではなかったんですけど、仕事に慣れなくて残業は多かったです。女性社員は残業時間を抑えるような取り組みがあった記憶はあります。

## 「働き方の変化とリモートワーク」

秋葉:今は随分変わりましたよね。有給も取りやすくなったり、技術部では社員のケガをきっかけにリモートワークが始まったんです。まさかコロナ禍でこんなに役立つとは思いませんでしたけど。

赤羽:リモートワークは本当に助かります。通勤時間がなくなるだけでも全然違いますし、家庭や介護との両立もできる。もし出社できなくても、家で仕事ができれば安心ですよね。

## 「働きがい改革へ」

秋葉:建設業界もDXが進んでいますけど、個々のモチベーションってすごく大切だと感じます。皆さんはどんなときに「働きがい」を感じますか？

赤羽:私は、現場の職人さんが自分が作った図面を見ながら作業してくれているのを見た時に、働きがいを感じますね。特に、職長さんや担当の方と何度も打ち合わせを重ねて仕上げた図面が、実際に役立っているのを見ると、すごく嬉しいです。

池田:それ、分かります！私も現場から「ありがとう」と声をかけてもらえると、一生懸命取り組んだ甲斐があったなって思います。特に、図面や資料を工夫したこと理解してもらえると、努力が報われた気がしますね。

秋葉:なるほど。成果が見える瞬間って大事ですよね。私はチームで協力して、難しい案件をやり切ったときに働きがいを感じます。特に、若手がベテランの経験を、ベテランが若手の発想を取り入れて成果が出ると、「いい組織だな」と思います。

赤羽:若手のデジタル技術と、ベテランの経験が合わさると、本当に強いチームになりますね。これからの中井建設の未来が楽しみです。



# 未来の職人に“リアルな体験”を



■ 学生の皆さまが納得してキャリア選択ができるよう、“実際に足場を組む体験”や“都内大規模現場で見学会”など建設現場のリアルを感じてもらう場を多く提供しています。

## ■ 出前講座



型枠施工の実習

諸団体や学校からの依頼を受け、2025年は大学1校、専門学校1校2学科、高校11校に計87回の出前講座に対応しました。足場や型枠の組立解体、墜落制止用器具(フルハーネス型安全帯)の安全衛生教育などの実習に講師を派遣しました。

## ■ インターンシップ

リアルな

### 学生の声

はじめて知ることが多く、学びの機会になりました。インターンシップのなかでも、社員の方々が優しく対応してくださいましたことが強く印象に残りました。



希望職種が決まらないなかでの参加でしたが、実際に足場を組んでみて、とび職っていいなという気づきがありました。これからの進路活動に生かしていきたいと思います。



足場組立の体験

リアルな

### インターンシップ指導者の声

人材開発部 人材育成課  
課長 山門 大志 (勤続22年)  
熊本県立球磨磨工業高校 卒

体験を通じて、まずは建設業の楽しさを知り、進路を建設業に決めていただけたら嬉しいです。欲を言えば、当社に入社してほしいですね!!!



学生の中には、はじめてフルハーネスを着装する学生も!コミュニケーションを取りながら無事全員で完成させた仮設足場で記念撮影。



## ■ 応募前職場見学

学生だけでなく、保護者の方にも納得いただける会社でありたい。

保護者の方には、会社だけでなく、社員寮の生活環境も見学していただきます。「どんな環境で働き、どんな生活を送るのか」を知ることで、お子様の新しい一步を安心して応援していただけます。



都内大規模現場の見学



応募前職場見学 TikTok



# 来場者全員が楽しめる祭典

今年で22回目となる技能競技大会「技能オリンピック予選会」が6月1日によみうりランド(東京都稲城市)の駐車場で開催!たくさんの学生や一般の方々にご来場いただき、ものづくりや建設業の魅力を伝える機会となりました。



学生は学校ごとに担当がついて説明

子どもも大人も夢中の重機体験

## 座談会

来場者数500名超えの名物イベント、“全員が楽しめる空間”にこだわった環境づくり

**山** 今年も学生と一般の方々で大賑わいでしたね!建設の知識が全くない方々にも楽しんでもらうために、2人はブースづくりにどんな工夫をしたんですか?

**櫻井** 私は高校生や専門学生、大学生に建設の魅力を伝える建設業ブースを担当したのですが、『どうしたら学生がわくわくするか!』を意識しました。たとえば、装飾は“建設感”というよりかは“お祭り感”を出したり、学生が目にする資料はイラストを多めにしたり。技能オリンピックの競技が、実際の仕事では誰が行い、どんな仕事をして活躍しているのかが分かりやすいように資料の見せ方も工夫しました。

**浅原** そうそう、“お祭り感”は統一して出そう!って決めたんですよ。私はイベントに興味を持ってくださった方々や子どもたちが遊べる向友会\*ブースを担当しました。建設業のことを知らない方々が遊びながら自然と“ものづくり”に触れられるように、参加者全員がお菓子詰め合わせをもらえるシールラリーを実施しました。シールを集めていくと、射的と綿あめがある屋台や会場を制覇できる仕組みは向友会メンバー全員で考えました。

**山** たしかに、あえて“建設感”を出さないことで取っつきやすく、2つとも人気のブースになったよね。

**櫻井** お互い当日より準備が大変だったよね!装飾もお菓子もどんなものが良いか結構悩んだよね(笑)。

**浅原** 悩んだね~、お菓子も200個以上、みんなで手を止めず詰めたよ(笑)。山部長は何か1番大変でしたか?

**山** 私は準備も当日も大変でしたね!準備では学生の参加人数がギリギリまで確定しないこともあり、スタッフの配役をどうしようか悩みました。当日は時間管理が大変でしたね。学生によってどこをメインで見たいかも変わるので、“回りきれない”なんてことがないように気をつけました。

**浅原** たしかにどっちも大変そうですね…時間は限られてるけど全部を体験させてあげたいですもんね。

**櫻井** 私はハーネス体験を建設業ブースでやっていたんですけど、「え~!凄い!ハーネスってこんなに重いんだ!」ってはしゃいでくれる子が多くて、建設業を身近に感じることのできるいいアイテムになったと思います。

**山** 総じて500名を超える来場者が楽しめる良いブースだったので本当に良かったと思います。

**浅原** ほんとにそうですね!大の大人たちが本気でわくわくを考えていた会議は結構楽しかったです(笑)。

**櫻井** 来年もわくわくの輪が私たちから学生に広がるものを作りたいですね!

**山** 技能オリンピックを通じて、早いうちから建設業に興味を持ち、工業高校や専門や大学の建築学科・土木学科を目指す学生が増えてくれたら嬉しいです。

※向友会:社員の親睦団体

人材開発部 人事担当部長  
**山 寛**(勤続34年)  
安田学園高校 卒

経営企画部 広報課  
**浅原 梨菜**(勤続2年)  
東京女子大学 卒



技能オリンピック  
予選会  
ダイジェスト動画



# 技術・技能を極める情熱と積み重ねてきた功績

## ■建設事業関係功労者等国土交通大臣表彰 受賞

代表取締役会長 遠藤 和彦(勤続46年)

去る7月10日に、国土交通省より大臣表彰を受けることができました。この賞は、東京建設躯体工業協同組合からの推薦により叶ったのですが、従業員の方々の普段の努力が実を結び、会社が社会的責任をしっかりと果たしてきたからに他なりません。改めて、従業員の皆さまに心から感謝申し上げます。これまでの人生を振り返ると、昭和54年に入社して以来、様々な業務に携わらせてもらい、多くの知見を得て充実した企業人生を歩んでこられたと思っています。もちろん、仕事の過程では、追い詰められたり、投げ出したくなったり、落ちこんでしまう場合は、数えきれないほど経験しました。そんな時、私を救ってくれたのは先輩、同僚はもちろん「六中觀」という長年座右の銘としてきた教えもその一つです。物事を反転させるこの教えは、幾度も逆境の私にたち向かう元気や勇気をくれました。大切な一念を持つことの大切さを、今、心から実感しています。企業人生は、だいぶ残りが少なくなってきたが、これからも社会や会社の発展に向け全力を尽くしてまいります。



## ■瑞宝単光章 受章



東北支店 建築工事部 宮城営業所 热海康太郎班  
職長 鈴木 博(勤続34年) 東北電子専門学校 卒

受章の内示を知らされた際は、何のことかすぐには理解できず、驚きを隠せませんでした。これまでの仕事を振り返ると、「楽しく働くこと」を第一に、現場の全員がそう思えるよう努めてきましたが、その分、家族には苦労をかけ、申し訳ない気持ちでいっぱいです。若手や後進の育成には、自分なりに力を尽くしてきたつもりですが、受け止め方は人それぞれだと思います。特別な感動エピソードはありませんが、日々の仕事一つひとつが私にとっての経験です。今後の夢は、この仕事を何歳まで続けられるか挑戦すること。今回の受章は、推薦してくださった浅沼組様や現在担当させていただいている戸田建設様のおかげであり、感謝してしません。これからも、担当現場から表彰をいただけるよう努力します。そして、家庭との両立ができるように苦労をかけた家族には、向井建設から「お役御免」と言われるまで、もう少しだけ付き合ってほしいと願っています。

## ■日本建設業連合会(日建連)2025表彰「第6回土木賞」 受賞

この表彰は、社会基盤として国民生活と経済活動を支える土木分野の優れたプロジェクト・構造物を表彰するものです。当社は、関係会社として表彰されました。

### 日比谷線虎ノ門ヒルズ駅設置に伴う土木工事

大規模交差点直下における地下鉄営業線運行下での新駅設置工事



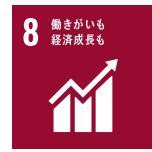
出典元:日本建設業連合会HP

### 福島第一原子力発電所ALPS処理水希釈放出設備工事

作業制限の多い施工条件に対応した海底シールドトンネルほか放水施設の築造



出典元:日本建設業連合会HP



## ■ 第63回技能五輪全国大会(あいち)で『金賞』、『敢闘賞』の2冠獲得！

中央職業能力開発協会主催による第63回技能五輪全国大会が10月17日～20日までの4日間にわたり愛知県で開催されました。愛知県国際展示場(Aichi Sky Expo)第一駐車場で行われた「とび職種競技」には、全国から9名が選ばれ競技課題の【コの字型高床・段違い合掌小屋組】に挑み技を競い合いました。千葉県代表の齋藤社員は『金賞』、東京都代表の有村社員は『敢闘賞』を受賞しました。選手の並々ならぬ努力と選手を支える関係者が一丸となって取り組んだ「チーム力」で入賞に輝きました。



千葉県代表 齋藤社員



向井建設



東京都代表 有村社員

技能五輪TikTok



建築直轄施工部 技能グループ

齋藤 彪翔(勤続2年)埼玉県立大宮工科高校 卒

初めて技能五輪全国大会に出て、全国の方々と小屋組を組んで精度やタイムなど自分の実力を知ることができて良かったです。練習では水平、垂直、番線が上手くいかず何度も練習をしました。本番は緊張してあまり動けず寸法を間違えたりして焦っていたのですが、途中から緊張が解けいつも通りの動きができるで良かったです。苦手だった水平、垂直、番線は練習以上に上手くやることができ、小屋組の見た目も完璧だったので自分の中では一番な出来でした。これからは大会で得た知識や技術・技能を現場でも生かしていきます。



建築直轄施工部 技能グループ

有村 大斗(勤続2年)東京都立墨田工科高校 卒

技能五輪全国大会というあまり体験することができないことを同期と体験でき、いろいろな学びを得ることができました。僕は本番でミスをしてしまい、練習での自分の甘さが出たのかなと思います。この1ヶ月間で自分の弱さを知ることができたので、これからの現場で生かしていきたいと思います。技能五輪全国大会に同期と出場し、たくさんの応援や協力があったからここまで来られたと思います。それに対して金賞、銀賞でお礼をすることができないと悔しいです。

## ■ 建設業労働災害防止協会(建災防) 表彰

### 第62回建災防安全衛生表彰「功績賞」

この賞は、建設業に関する安全衛生活動を活発に実践し、地域又は関係事業場の安全衛生水準の向上に功績のあった個人に授与されます。



機材部 重機土工課 上級職長  
長堀 雅将(勤続19年)  
埼玉県立春日部工業高校 卒

### 東京支部「安全優秀職長賞」

この賞は、労働災害を防止し、安全な作業を確保するためには模範的な活動を行った職長に授与されます。



土木統括部 工事一課 工事係長  
沢田石 裕行(勤続23年)  
秋田県立金足農業高校 卒



土木統括部 工事三課 工事係長  
石沢 裕芳(勤続23年)  
山形県立山形工業高校 卒

# すべてのお客様へ安心と満足を

## 株式会社 TOM



### 会社概要

代表者 代表取締役社長 成田 広

東北本社 宮城県仙台市青葉区一番町2-5-17

東京本店 東京都千代田区神田須田町2-8-1

設立 1987年9月18日

資本金 51,500,000円

事業内容 建築土木一式工事、内外装リニューアル工事  
耐震補強工事、建物解体工事、他



ある時は「ゼネコン」またある時は「サブコン」の【二刀流】として ①設立以来培った高い技術力、優れた施工管理能力による新築工事。②既存の古い建物を蘇らせる改修工事・内外装リニューアル工事。③老朽化した新幹線の耐震補強、北海道新幹線を始めとした地域インフラ整備。④電力、下水、橋梁・鉄道など、都市インフラ整備を施工する土木工事を得意としています。



代表取締役社長  
成田 広 (勤続41年※) 青森県立弘前工業高校 卒

早いもので私が3代目社長を拝命し、2年が過ぎました。この間、お客様のニーズも多様化しその期待に応える柔軟な対応を最優先し信頼獲得に尽力してまいりました。経営ビジョンである「人々の生活に欠かせない建設会社としてお客様に安心と満足を提供し自らも達成感を実感できるやりがい創造企業に成長する」にはまだまだ届いていませんが、「誰がやる、俺がやる」「誰が行く、俺が行く」という強い使命感や責任感を持った社員が営業地域である東北6県、関東圏を飛び超え、北海道・栃木・茨城での遠隔地施工要請にも対応しております。また、ゼネコンとして東北本社では仙台市発注案件を2件、東京本店ではムカイグループより改修案件を3件、大手ゼネコンとの建設共同企業体の構成会社として新築案件を施工中であり、ゼネコン、サブコン二刀流企業として「従業員と共に更なる成長」と「関わる全ての人に満足を提供する」ことに挑戦いたします。

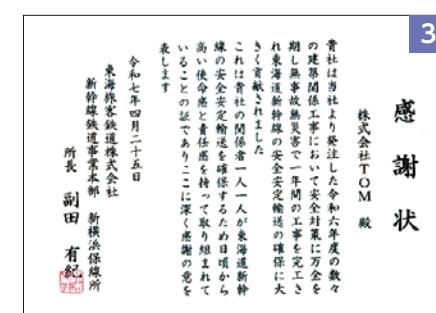
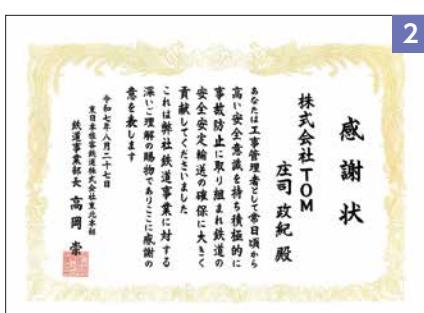
※ムカイグループでの勤続年数

### ゼネコンとサブコンの二刀流で着実に成長

これらの感謝状は、当社が安全・品質・工程管理および技術において高く評価され授与されたものです。

今後とも、安全・品質・工程を守り、お客様に貢献できるよう励んでまいります。

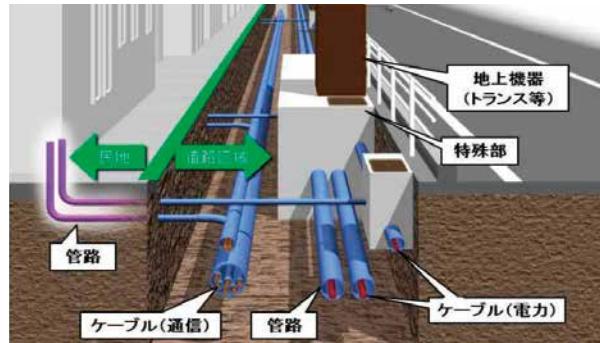
- 1 株式会社ナカノフドー建設 感謝状
- 2 東日本旅客鉄道株式会社(JR東日本)東北本部 感謝状
- 3 東海旅客鉄道株式会社(JR東海) 無事故無災害 感謝状
- 4 鉄建建設株式会社札幌支店 表彰状





## ■ 東八番丁小田原線外2線電線共同溝整備工事

道路上の電柱や電線は、景観を損なうだけでなく、歩行者や車いすの通行の妨げとなります。また地震や台風などの災害時には電柱の倒壊により緊急車両などの通行に支障をきたす可能性があるなど、様々な課題があります。この課題を解決するため、電線共同溝を整備し、地上の電柱・電線をなくします。



### 工事概要

電線共同溝：特殊桟19基  
分岐桟2基  
本体管路：L=3,077m  
連携引込管路：L=2,457m  
舗装：車道395m<sup>2</sup>  
歩道686m<sup>2</sup>  
工事内容：排水構造物、  
伐採及び伐根、  
仮設工(覆工板)、  
構造物取壊し他

### 統括本部

工事係長 今野 宏昭 (勤続4年) 仙台市立仙台工業高校 卒

本現場では、騒音・振動を極力少なくするため、指示や話し方にも注意するとともに、現場車両に『騒音・振動計』を設置し、モニター表示を確認しながら注意喚起を行い、施工をしています。これまで、苦情・事故は、発生しておりませんが、既存のライフラインが歩道下に近接しているので、地下埋設物の破損が発生しないよう、これからも各機関との連携を密に行い、安全作業に努めてまいります。



## ■ 広瀬通地下自転車等駐車場大規模改修工事

施設の深刻な損傷による大規模な費用と長期利用停止を避けるため、「対症療法型」から「予防保全型」の維持管理に転換し、長寿命化とライフサイクルコストの縮減を目指します。



### 工事概要

構造：鉄筋コンクリート造  
規模：地上1階地下1階建  
工事内容：屋根改修工事、外壁、  
内壁、床改修工事、  
建具改修工事



地上1階 広瀬通地下自転車等駐車場出入口



### 統括本部

課長 相野谷 和之 (勤続31年) 職業能力開発総合大学校 卒

仙台駅中心部の主要道路に面し、繁華街にも近接している現場であり、地下駐輪場を運用しながらの工事だったため、資材搬入時の車両・第三者との接触、施設利用への配慮に細心の注意を払いました。元請職員としてこの公共改修工事を完遂し、都市機能の円滑化と安全・快適な生活環境の提供に貢献できたことを誇りに感じています。

# 市民の文化芸術活動の拠点を再構築

## ■八王子市芸術文化会館大規模改修工事

八王子芸術文化会館は、1994年の開館以来、音楽や演劇の公演、美術作品の創作・展示など、市民の自主的な文化芸術活動の場として、年間約23万人の市民に利用されている施設で、当社は振興拠点の再構築に貢献しています。

### 工事概要

主要用途：劇場  
敷地面積：6,669.77m<sup>2</sup> | 規模構造：鉄筋コンクリート造  
一部鉄骨造：地下1階、地上4階、塔屋1階



## 大規模改修工事の方向性と目指す姿

### ■公益的な文化芸術事業を展開する拠点施設

- 文化芸術事業の実施を通じて、市民の文化芸術活動の振興を図る
- 芸術文化会館の価値向上

### ■まちの広場となる開かれた施設

- ロビーなどでも市民が日常的に文化芸術に触れることができる
- まちの広場として中心市街地の活性化にも寄与する
- 文化イベントなど、MICE\*でも多様な活用ができる

### ■市民の文化芸術活動の振興拠点

- 芸術活動の練習・発表・創造の場である
- 市民利用に快適な規模・機能を持つ
- ユニバーサルデザインに配慮し、多様な利用者が快適に利用できる

### ■安心・安全に利用できる施設

- 施設の長寿命化や環境に配慮し、維持管理コスト、法改正にも対応
- 常に利用者が気持ちよく、安全・安心に利用できる



大ホール



バリアフリー



ソーラーパネル

東京本店 取締役本店長  
藤田 正人（勤続11年）明治大学 卒

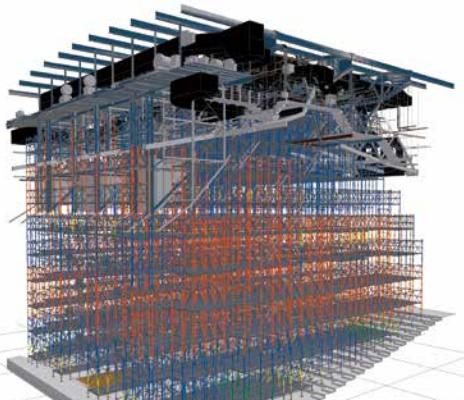


この現場で最も苦労したのは、複雑な構造物への対応でした。外壁には特殊な形状のカーテンウォールが使われており、通常のやり方では足場を組むことすら困難でした。しかし、現場で知恵を出し合い、壁つなぎの金物を独自に考案して取り付けたことで、安全な足場を確保することができました。このように、既存のやり方に固執せず、柔軟に対応していくことが、これから建設業には不可欠だと感じています。大ホールの天井改修も大きな挑戦でした。曲面で高低差のある天井に足場を組むため、3Dモデリングを駆使して縦密な計画を立てました。解体、改修、復旧と、工程ごとに足場の組み替えを繰り返す作業は、細心の注意を要します。こうしたデジタル技術の活用と、地道な手作業の組み合わせが、高品質な改修工事を可能にしているのです。完成した大ホールを見たとき、そして無災害で引き渡しを終えたときには、これまでの苦労が報われる大きな達成感を感じました。私たちの仕事は、建物が安全に、そして美しく生まれ変わることです。この誇りを胸に、これからも変化を恐れず、挑戦し続けていきたいと思います。

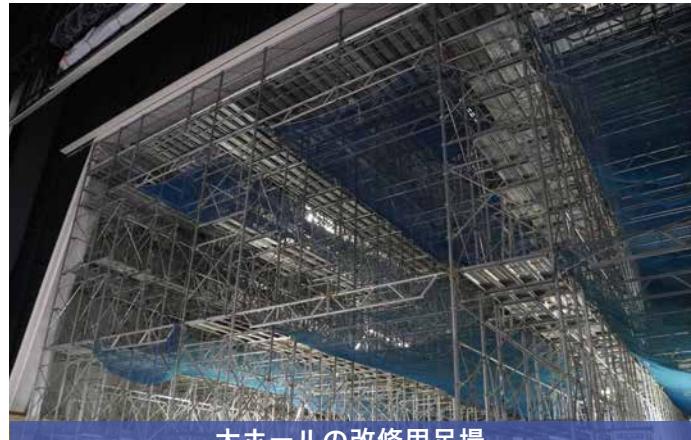
\*MICE:企業などの会議(Meeting)、企業などの行う報奨・研修旅行(インセンティブ旅行)(Incentive Travel)、国際機関・団体、学会などが行う国際会議(Convention)、展示会・見本市、イベント(Exhibition/Event)の頭文字を使った造語で、これらのビジネスイベントの総称です。



3D動画



大ホール改修足場 3Dモデリング



大ホールの改修用足場

当社はこれからも、日本の未来のために社会の資産となる技術と技能を築いていきます。

## 採用活動

### ■ インターンシップ

実際の現場で使う機材や知識を学んでもらい、建設業界や当社への理解を深めていただきました。現場の先輩方に直接質問をしたり働いている様子を見て、目を輝かせていました。



フォトラクションを使用した実習



現場見学

### ■ 応募前職場見学会

当社へ入社希望の方々には会社説明会・現場見学・寮施設を実際に見て回っていただき、入社後のイメージを持っていただく機会を設けています。



測量実習



寮見学



現場見学

# 「誠実・和」を心に人と社会と未来をつくる

## 株式会社 稲田組



### 会社概要

代表者	代表取締役会長 遠藤 和彦 代表取締役社長 中塚 佳愛
本 社	北海道札幌市豊平区月寒中央通3-1-10
機材センター	北海道北広島市大曲771-12

設立	1962年4月
資本金	60,000,000円
事業内容	設計企画管理、建築工事、土木工事、とび土工 鋼構造物工事、舗装工事、橋梁架設工事、杭基礎工事

長く安心して過ごせる建物がある街には人が集って活気にあふれ、明るくて希望に満ちた暮らしが生まれます。稻田組の社訓である「誠実・和」という人を想う心を胸に私たちは仕事に向き合い、より豊かな人と社会と未来の創造を目指しています。

### 千歳市内の3階建サービス付き高齢者向け住宅

### 建築部



#### 建築部

課長 高桑 雅文 (勤続6年) 北海道旭川工業高校 卒

今回、新入社員と共に現場代理人として初めて現場管理を担当しています。安全を最優先し、工程や品質の各管理において後戻りのない施工を心掛けながら日々学んでいます。新入社員には、各種工事内容や重点管理ポイントを丁寧に伝え、わからない点は一緒に調べ、一つずつ解決することを育成につなげています。特に協力会社への感謝の気持ちを忘れず、作業しやすく安全な環境を整えることを伝えています。現場では、近年の異常気象(猛暑・大雨・強風など)への安全対策を今まで以上に強化して対応しています。作業員さんの減少や高齢化など、労務環境が年々厳しさを増すなかで工程管理においても困難が多いですが、強い精神力を持ち続け、安全で確実な施工を通じて地域社会に貢献してまいります。

建築部  
鎌田 龍喜 (勤続1年) 札幌山の手高校 卒

今回担当している現場では、各工事の検査や確認、各業者間の調整、協力会社への作業指示を行っています。入社して特に印象に残ったのは、工種によってはミリ単位の確認や指示が求められる場面であり、正確に対応できたときの達成感は貴重な経験となりました。先輩や職長さんからは安全面の徹底や課題への向き合い方を学び、今後の糧としています。日々の巡回では不安全箇所を確認し、発見次第すぐに対処することで災害防止に努めています。今後も困難に直面した際には正面から立ち向かい、粘り強く一歩ずつ成長を重ね、現場で信頼される存在を目指していきます。





## ■ (仮称)札幌北1西5計画

## 鉄構部

北海道は「ゼロカーボン 北海道」を、札幌市は「環境首都・SAPP-R0」を掲げ、脱炭素や再生可能エネルギーへの移行に向けた施策の推進や大通駅周辺のまちづくりの一助となる民間開発案件、さらに地域の安全・安心を支える地域強靭化に資するBCP拠点として、市民の皆さまから愛されるランドマーク施設の施工に携わっております。本物件では、札幌市より「脱酸素化」、「強靭性」、「快適性向上」が高く評価され、「ゼロカーボン推進ビル」の認定を取得しています。



工事概要	
建物用途	事務所・ホテル他
延床面積	60,908m <sup>2</sup>
構 造	鉄骨造／ 鉄骨鉄筋コンクリート 制震構造
規 模	地上26階、地下2階 塔屋1階
高 さ	110.9m



出典元: NTT都市開発株式会社HP

鉄構部  
工事長/職長 菅野 正寛 (勤続34年)

近年、札幌でも夏に30度を超える日が続くようになり、熱中症対策の重要性が一層高まっています。特に今年から熱中症対策が義務化されたこともあり、空調服の支給といった物理的な対策に加え、現場巡回の際に部下の体調や表情を細かく確認し、少しでも疲れの兆候があれば休憩や水分補給の時間を早めるなど、働きやすい環境づくりに努めています。このような積み重ねが、最終的には安全で確実な施工につながると考えています。また、現場で働く人々の世代が幅広くなっています。特に若手には作業指示だけでなく、日常会話の中でも積極的に声を掛け、職場に馴染みやすい雰囲気づくりを意識しています。長年培ってきた経験や知識を、日々の関わりの中で次の世代に伝えていくことが、自分の大切な役割であると感じています。今後も札幌中心部で進む再開発の現場において、仲間と共に安全を最優先に施工を進めながら、次の時代へ技術・技能と想いをつないでいきたいと考えています。

鉄構部  
川上 勇也 (勤続3年)

今回担当した現場は工期が非常に厳しく、安全性と効率性を両立させることが求められました。そこで、休憩所を地上だけでなく屋上にも設置し、移動の負担を減らすことで体力の消耗を抑え、作業中の集中力を維持できるよう工夫しました。また、札幌市中心部という人通りの多い環境に配慮し、先行垂直ネットを設置して落下物対策を徹底しました。勤続3年目で最も大規模な現場となり、これまでにない多くの経験を積むことができました。特に、元請職員や協力会社の方々と積極的にコミュニケーションをとり、信頼関係を築くことが、仕事を円滑に進めるうえで不可欠であることを強く実感しました。今後も様々な経験を一つひとつ積み重ね、幅広い業務を担える力を身につけながら、現場で信頼され、仲間から頼られる存在へと成長していきたいと考えています。



# MUKAI GROUP

ムカイグループ ブランドメッセージ

たち向かう



ムカイホールディングス株式会社

東京都千代田区神田須田町2-8-1



向井建設株式会社

東京都千代田区神田須田町2-8-1

**TOM**  
株式会社TOM

宮城県仙台市青葉区一番町2-5-17



株式会社 稲田組

北海道札幌市豊平区月寒中央通3-1-10

**SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS**

ムカイグループは持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。

2025122500(Y)